



座談会

# 支部活性化の取り組みについて ～中讃第2支部の歴代支部長から学ぶ～

【出席】

第31・32期中讃第2支部支部長

**島田 治男氏**

島田治男建築設計事務所／所長  
(副代表理事・中讃第3支部)

第34・35期中讃第2支部支部長

**小西 啓介氏**

㈱ウエストフードプランニング／代表取締役  
(代表理事・中讃第2支部)

第38・39期中讃第2支部支部長

**吉田 尚樹氏**

㈱ビルド／代表取締役  
(理事・中讃第3支部)

目覚しい支部発展で、注目を集めてきた中讃第2支部の歴代支部長から、「支部活性化の取り組みについて」をテーマに、支部運営の秘訣はどこにあるのかを語っていただきました。

## 例会づくりで心がけたことと役員会について

**島田** 最初に役員だったときの話ですが、役員会には殆ど出席したことがありませんし、例会の参加者も3、4人で酷い状態が続いていました。それが少しずつ改善されていき、グループ討論のない例会はしてはいけないことや、座長の必要性を故野田勝利氏から強く説かれて、全国大会と同じ形式のグループ討論を始めました。思い返すと本当に寂しい状況でした。

**吉田** その通りで、それまではグループ討論があったりなかったりでしたし、その後の懇親会がメインだったりで、参加者は集まらないし、飲んで遊んで、また来月という、そんな例会でした。

**島田** うちの支部には役員の方を始める、何のルールも作られていなかったもので、まずそこから手をつけようということ。幹事長、副支部長、支部長、それぞれに2年続けることを決めました。

**吉田** その後、支部には理念が必要だからと理念を創ったのですが、同時に中讃第2支部を日本一の支部にしようと、とてつもない野望を持ったわけ。そのときのリーダーは、言うまでもなく小西さんです。(笑)

**島田** そこで1000カ月連続入会日本一の阪神支部を訪ねて、その秘訣を教えてもらおう。そして、そこで学んだものを自分たちの支部づくりに生かして、日本一の支部になるとうと本気で考えました。

**吉田** とりあえず、新しい会

員をどんどん増やして支部を活性化することにしたので、スリープ会員はたくさん辞め、代わって若い会員が入会しました。

**島田** とにかく驚くほどの会員が退会しました。例えば、20人退会すると40人入会するという、そんな状態でした。

**吉田** そうです。語弊があるかもしれませんが、若い会員さんが増えたことで一気に活性化したように思います。

**島田** それから、経営指針を創る会、社員教育、後継者問題、地域活性化など、目的を持った部会に登録し、年2回ほどの例会開催を始めました。

**吉田** 例会の仕組みづくりもそのあたりから始まっていきます。例会の企画書も4カ月前からスタートすることにし、報告者の選定など全てを徹底しましたが、グループ討論の発表などが負担になったのが退会の原因だったので、これ

では駄目だとなったわけです。  
**島田** そこで、第3月曜が例会、第4月曜がオリエンテーションと決め、それに元支部長がサポートすることにした。

**吉田** それまでは毎月1回していた支部運営の新入会員のオリエンテーションを3回受講をワンクール（3回受講で完了）にし、また、支部づくりを学ぶ役員研修会を行うことにしました。私たちが学ぶことで支部運営を確かなものにしたと皆が考えたからです、そこには先輩会員の教えと導きがありました。そして、小西さんが支部長のときに理念づくりが始まりました。

### 支部の指針と理念づくりから全てが始まった

**吉田** 島田さんが例会づくりを引っ張り、小西さんが支部の大きな目標や理念、ビジョンを立て、支部の指針を構築し

ていくという一つの流れができたんですね。そしてそのビジョン通り、新入会員が増えて200名を超えたのです

が、そうすると例会や懇親会の会場が限られてしまい、何かと不便が生じるようになってきたこともあったのですが、私も丁度組織委員長を引き継いだこともあり、この今がタイミングだろうと、支部の立ち上げを実行に移すことにしました。支部立ち上げに関する規約はないという事務局の話もあり、40名で中讃第3支部を立ち上げました。現在、中讃第2と第3で300名を超えたので、理念やビジョンを踏まえて行動した結果

だと考えています。

この経験からですが、私たちの支部がどうなりたいかという目標を掲げていると、支部長が代わってもそれがビジョンとして残っていった結果だと受け止めています。とてもいい例会をしている支部がありますが、数値目標が弱かったりするので、その意味で中讃第2支部は昔からの流れを継続しつつ、支部長ができる人間を少しずつ育てていきました。



吉田尚樹氏

**島田** 新入会員が目に見えて

増加した頃から、1000社を2000社に、そして3000社にすることを宣言しました。ただ、それだけ増えると会員企業の地域が広がり過ぎてしまうので、やはり地域に根差してということになったわけです。

**小西** 私が支部長時代、退会者が続出しました。しかし、それを超える入会数に救われました。そして同時に会員層

が若返った支部の変革期だったと思います。結果、支部が活性化したのですが、渦中にはずいぶん悩み、先輩会員の矢野さんに相談に行ったことを

覚えています。

この状況を招いたのは、おそらく私がこれまでの中讃第2支部とは違う厳格な方針を打ち出し改革を断行した事による反発が主な退会要因なのではないかと伝えました。しかし矢野さんは、「そういうことは気にしないでいい。このままどんどん進めばいいんだ」と支部改革を支持し私を勇気づけてくれました。

その後も徹底的に同友会理念に沿う活動を行う過程で様々な摩擦が生じましたが、私は強い信念を持ち改革を進めました。支部改革の目的は会員企業の成長です。同友会

理念から外れない活動を強く意識しました。

**吉田** 確かにそうだと思います。

**小西** 結果として支部が成長できたのは同友会活動の原点に返ったからだと思えます。当時、役員会で「同友会運動の発展のために」の読み合わせを繰り返し行い活動の共通言語化を進めました。そして入会したらよ

い会社よい経営者になるために学ぶという同友会活動の目的を支部内にはつきりと示し、会員に自社の成長を促したことも忘れてはならないことです。

**基本に忠実に、その趣旨を曲げず、次世代に繋ぐ**

**島田** そうです。最初の頃は経営指針を全面に出した例会は誰も来なくなるのではという懸念が大いにありましたが、少しずつそれは払拭されていきました。

**吉田** 中讃第2支部が特別なことをしたわけではなく、





同友会運営の基本に忠実に、その趣旨を曲げず、それを次の支部長に繋げていったことだと思えます。中讃第2支部の歴史を振り返ると、一度は退会者が増えるかもしれませんが、きちんとした理念やビジョンを掲げていけば、目指す方向に進んでいけると私は思っています。それから、問題解決に先輩会員の教えがあったことも大きかったように受け止めています。

**島田** 私の一番の印象は、小西さんが支部長になってから一時期、退会者が続出したのですが、退会者数を上回る数の入会者、それも若い会員の

入会があっただけでなく、入会した彼らは学びたいことがはっきりしており、私たちはそれに応えるという形でした。ですから、おのずと活性化が進み、古い会員の姿勢が変化していくという、理想の形がつくられていったと思います。そして80〜90名の支部が10数年で3倍に会員を増やし、地域も広がっていきましました。おそらく基本に忠実にブレなかったからだと思えます。会員が増えるにつれていろんな課題が出てきたのですが、それがオリエンテーションのきつかけになるなど、そのときどきの積み重ねが今を

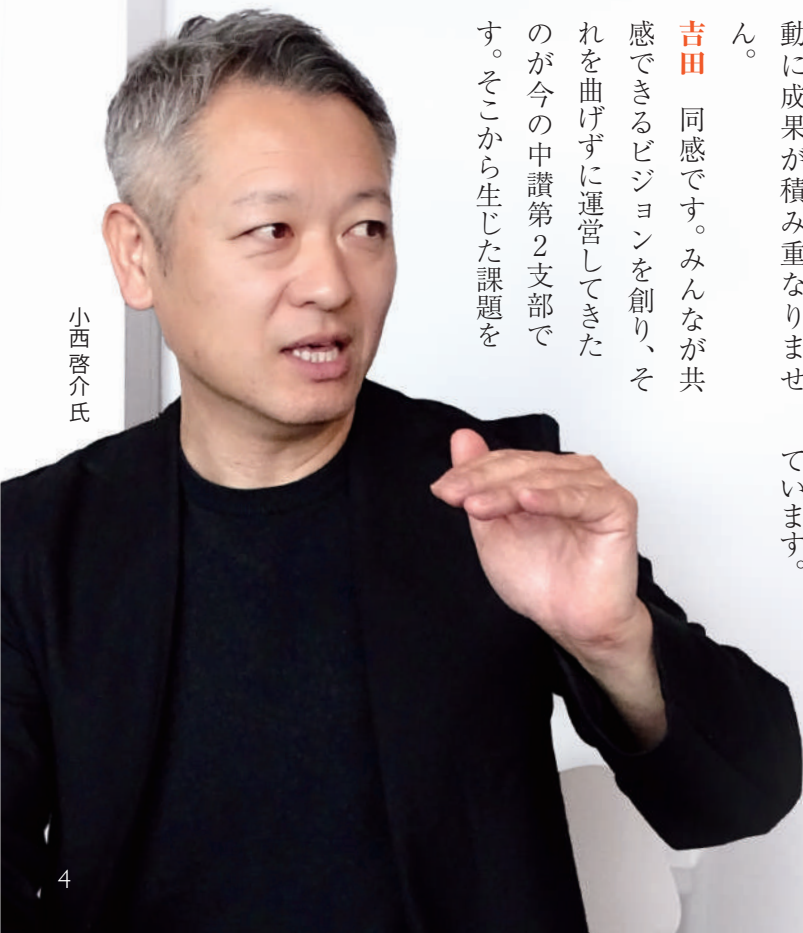
つくったと思っていますが、これからはたぶん、小西チルドレンの活躍で、新しい支部に生まれ変わるような気がします。

**小西** 支部理念は絶対に必要です。支部理念を支部内で共有し同友会の基本に忠実に活動することが一番求められていることだと思います。理念や基本を置き去りにすると個人的な思想や感情の寄せ集めになり議論がかみ合わず、活動に成果が積み重なりません。

**吉田** 同感です。みんなが共感できるビジョンを創り、それを曲げずに運営してきたのが今の中讃第2支部です。そこから生じた課題を

改善し、それを積み重ねていったのが現在の姿だと思います。

小西さんのビジョン創りという第一声に全員が「おお！」と賛同したことが全ての始まりだったような気がします。だから、10年後にはこんな支部にしたいと全体が同じ方向に踏み出したときがスタートで、それからの積み重ねが今日の姿をつくってくれたと受け止めています。



小西啓介氏

同じステージで同じ議論を根  
気よく続け、共感者をつくる

**小西** 当手を振り返ると同じステージで同じ議論を根気よく続けたことの成果ではないかと思えます。「みんなと一緒に」が方針の根底にあり、ひとりでも違う方向を向いていれば、わかり合うまでとことん議論を重ねました。それができたからこそ中讃第2支部の今があるわけです。

**吉田** それから、支部長と幹事長が一心同体で、幹事長は次の支部長候補としてふたりは週に何度も会って話し合いや意見交換をしてきました。膝を突き合わせて真剣に支部の未来について語り合っています。  
**小西** 支部長は、同友会とは何ぞやをしっかりと理解した上で同友会理念とそれに沿う自分の考えに共感してくれる役員をつくり、その後も継続的に共感者を増やしていくこと。これが同友会らしく健全な支部づくりを推進する上で

最も重要だと思っています。中讃第2支部はこの共感者づくりを継続して来しました。

支部長の皆さんに私からアドバイスをするならば、支部長就任後は一日も早く同友会を徹底的に学び理解し、支部役員を自身と同友会理念の共感者にする。これが支部活性化への第一歩だと思います。

**吉田** 昔は「幹事長や支部長になつたら会社の売り上げが下がる」と言われていたので、ずいぶん前から、「うちの支部は役員をやつたら会社の売り上げが倍になる」と言われるようになっていきます。耳が痛くなるほど、「支部長は支部を会社と思え」と皆から言われました。

**小西** 香川同友会の支部長としてどのように見られているのかを意識することは大変重要です。責任をもって自社を成長させないと、支部長（経営者団体のリーダー）としての説得力が失われ、その影響

は支部内外に及びます。先輩会員から「経営と同友会活動は車の両輪。支部長を受けるなら必ず経営を発展させること」と叱咤激励されました。私も支部長時代に強く意識していました。

**島田** それは真実だと思います。対外的に出ていったとき、「代表は誰ですか」と必ず問われます。これは絶対です。それだけに会の代表は重要です。

**吉田** 組織委員長や支部長、支部の立ち上げにも携わったのですが、その経験の中から得たのは、支部長は支部を会社だと思え。会社を運営するように組織をつくり、どうやっていけばいいかを考えることが肝要。経営者も支部長は同じで社員や会員と一緒に目標を目指すことに全力投球をという事です。

支部長の1年間はとても早いで、受け取った後、気がついたら1年が過ぎていたではなく、支部も会社も一緒に

伸びていくことがとても重要です。しんどいことに違いないのですが、頑張ってもらいたいと思っています。

**小西** 宣言することも大切です。宣言には力があり、必ず目指す方向に進んでいく事を経験してきました。宣言によってリーダーがどう考え何を志しているのかが明確になり、組織が大きく変わる可能性があります。同友会活動と経営は車の両輪だと言われています。支部を経営するという高い意識で同友会と向き合う事が経営の学びになり自社発展に繋がるといふ事をお伝えしたいと思います。

